

1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)
II 分析・改善方策
1 キャリア教育の視点に立った教育活動の工夫。
① 総合的な学習の時間や進路学習、講演会等を通して、効果的な指導が行われるようにする。
・ 総合的な学習の時間の継続的な取り組みや講演会は成果があった。今後はキャリア教育の成果を検証していくことが必要である。
・ 生徒や保護者との信頼関係をさらに構築し、先を見通した進路指導の工夫が必要である。
② あいさつ運動や美化係・図書委員会の活動を通して生きる力を育成する。
・ 生徒会執行部による朝のあいさつ運動や美化係による美化活動を全校へ拡大するのが課題である。
・ 図書館利用を促進し、書籍を通してものの見方や考え方を学び、広い視野を育てる方策を考える。
2 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上。
③ 授業公開、校外での授業参観などを通して、授業力の向上、授業研究体制を構築する。
・ 授業見学の実施率はほぼ目標を達成できたが、授業改善に結び付ける工夫が必要である。
・ 校外での授業見学の機会も設けた。次年度は実力考査の得点率と進路を検証した冊子を作成する。
④ 授業アンケートの活用の工夫を図る。
・ アンケート結果に基づき、各教科内の平均値と比較した個人データをグラフ化して全教員に個別配布した。今後は教科会議等で授業改善に向けた話し合い等が必要である。
3 生徒が自主性を発揮できる行事や委員会活動の工夫。
⑤ 生徒が主体となって企画運営させる体制作りをする。
・ 生徒会執行部の活動が安定し、生徒の自主的な学校行事が展開できるようになってきたが、委員会活動については活性化を図る必要がある。
4 地域への積極的な情報発信の工夫。
⑥ たか高スピリッツを考案し、効果的な広報活動を行う。
・ たか高スピリッツが少しずつ中学校へ浸透し、高校通信や新聞折り込みちらし、そしてマスコミの報道により本校の取り組みの様子を伝えることができた。今後はホームページでの情報発信の質の向上が必要である。
5 情報を共有し課題意識を持って取り組むことができる協働体制作り。
⑦ 進路指導、生徒指導などについて教員間の情報交換及び共通理解を図る。
・ 進路指導では、定期的な進路課会議や進路通信などを通じて教員間の情報・指導方針の共有化がなされた。生徒指導や生徒把握では、年次団会議で情報を共有することはできたが、年次を超えての共有が図れなかった部分がある。次年度は必要な情報を全教員間で共有していく工夫が必要である。
・ 部の顧問会議の回数が少なく連携が不十分であり、来年度の課題である。

2 学校関係者評価委員名

小野和博（同窓会関係者）	滝口久晴（PTA 関係者）	藤田和弘（吉備国際大学長）
森野美都子（PTA 関係者）	豊田正美（高梁中学校長）	

3 学校関係者評価

本校が評価目標を掲げ、努力してきた成果がアンケート結果などから伺える。あいさつなどは継続することこそ力となり、生きる力となる。授業力の向上については、受ける側の生徒にとってどんな授業がよいのかを研究していくことも大切な視点であろう。目標全体が、多岐にわたるだけに、バランスよく成果をあげることは難しいことから、重点的目標を定めて取り組み達成することで、全体の引き上げにもつながるものと考えている。そうした意味で次年度は、評価の中で「C」となっている項目を重点的に取り組むことも一つの方法であると考えている。また、進路情報を保護者へ発信する方法として、プリント、ホームページやメールなどを組み合わせれば効果がある。

4 来年度の重点取り組み（学校評価を踏まえた今後の方向性）

キャリア教育の視点に立った教育活動、生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上、委員会活動の活性化など、今年度の評価の課題を重点的に、各課等で連携を密にしながら組織的に取り組む方策を構築する。